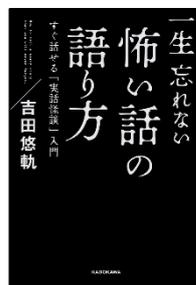


『ふちなしのかがみ』 辻村深月／著
KADOKAWA 2009 **F**



ホラーのようで、ミステリーのようにもある5つの物語が収められた短編集です。一番初めに収録されている物語「踊り場の花子」は学校の怪談でおなじみの「トイレの花子さん」を思い出させてくれます。怖いものが苦手な方にもおすすめです。

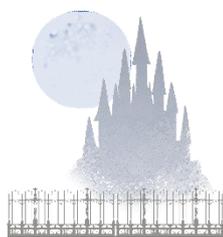
『一生忘れない怖い話の語り方』
吉田悠軌／著 KADOKAWA
2021 **147**



この本では、怖い話の取材方法、編集方法から、しゃべり方まで怖い話を語るうえで必要なことが細かく書かれています。

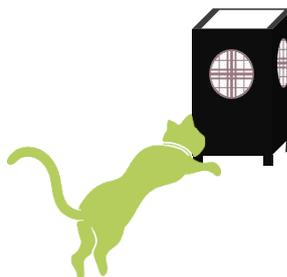
怪談研究者である著者が怪談を披露するときどんな準備をしているのか、裏側を覗きたい方、必見です。

『絶対に出る世界の幽霊屋敷』
ロバート・グレンビル／著
片山美佳子／訳
日経ナショナルジオグラフィック社
2018 **520.87**



世界各国の心霊スポットが掲載された写真集です。怪談の舞台になっていそうな建物の写真の横にはその建物で起きた不思議な現象について書かれています。背すじを凍らせながらお楽しみください。

『小泉八雲の妖怪図鑑』
小泉 凡／監修
三オブックス 2025 **388.1**



怪談作家、小泉八雲はどのような妖怪たちに魅せられ、執筆活動をしたのか。この本では彼の蔵書や直筆原稿からその裏側を探ります。また、当時の“あやかしの世界”も図版を用い紹介しています。

『雪の怪談・冬の怪』 小泉八雲／他著
河出書房新社 2025 **BF**



小泉八雲の「雪女」をはじめ、雪の夜や冬を舞台にした怪談のアンソロジーです。八雲や鏡花などの文豪の作品から山の遭難といった、実話系の話まで、寒くて不思議な話が多数収録されています。暖かくしてからお読みください。

『町田相模原怪談』 神沼三平太／著
竹書房 2025 **B147**



相模原在住の怪談作家が徹底取材のうえ執筆した、町田・相模原が舞台の怪談集です。なじみのある地名に怖さが倍増します。身近にひそむ恐怖、地元の怪談の数々を、作者いわく「エンタメとして楽しんで」とのことです。